

発表番号 9

「ニーズに応えた素材の生産・販売方法について」

関東森林管理局 資源活用課

供給計画係長 藤原 智史

1 課題を取り上げた背景

近年、大型製材工場や集成材工場、木質バイオマス発電所の新設・計画が全国各地で進んでおり、製材用材から低質材に至るまで、その需要に変化が生じています。また、各種用途において国産材比率が向上しており、国産材には今まで以上に安定供給が求められています。

そのような状況を受け、当局における素材販売の傾向を調査・分析し、変化する需要に対応した素材販売のあり方について、考察を行うこととしました。

2 具体的な取組

素材販売量の推移の他、樹種別、販売方法別比率等について、その傾向を調べるとともに、システム販売の公募・申請内容から用途・需要量についても分析を行いました。また、素材生産事業におけるスギの造材方法を検証し、作業効率、生産歩留り、総販売額の改善をテーマに、現地調査を踏まえてシミュレーションを行いました。

3 取組の結果

平成20年度以降の樹種別・販売方法別比率、生産歩留りの推移を図-1に示しました。年間約25万 m^3 前後の素材生産量と、その約6割をスギが占めているという状況に大きな変化はみられませんが、年々生産歩留りが向上していること、樹種別比率における低質材の比率が高まっているとともに、販売方法別比率におけるシステム販売の比率が高まっていることが分かります。

需要動向として分析したシステム販売の申請状況を、図-2に示しました。平成24年度は公募約7万 m^3 に対し申請約16万 m^3 、平成25年度は公募約10万 m^3 に対し、申請約27万 m^3 となっており、昨年度から今年

度にかけて総申請数量が大きく伸びている中、集成材や合板、木質バイオマス燃料といった需要が高まっていることが分かります。

造材方法については、従来、直材・柱適材優先の採材が行われてきたところですが、生産歩留まり、総販売額という点で比較した場合、曲り材を含む採材と大きな差はないことが分かりました。このことから、事業実施箇所の条件等によっては、作業効率を重視し、曲り材を含む採材を実施することも選択肢の一つになり得ると考えられます。

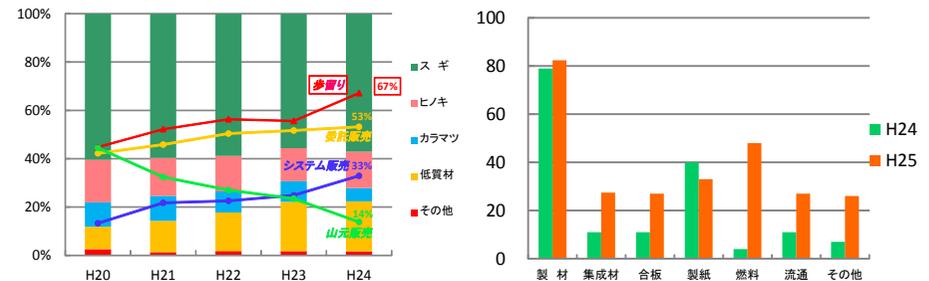


図-1 樹種別・販売方法別比率及び生産歩留りの推移

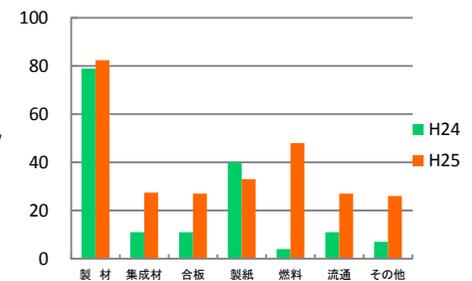


図-2 システム販売用途別申請数量 (単位: 千 m^3)

4 まとめ

素材生産については、さらに需要が増加すると見込まれる集成材や木質バイオマス燃料への供給対応として、作業効率と生産歩留りの向上を図ることが不可欠です。

販売方法については、外材から国産材への移行を含めた国産材利用推進を図る需要先等に価格・数量両面で安定的に素材を供給することが国産材利用拡大のキーポイントになると考えられます。また、販売にあたっては、人手・手間・経費をかけずに、流通コストを削減することが大きな課題となっています。

以上のことから、今後は民・国連携も含めたシステム販売がより一層求められることから、今後とも各地域の需要動向や販売方法毎のメリット・デメリットを十分に検証した上で、システム販売の拡充を図る必要があると考えられます。